

名 称	五島市体験活動ボランティア活動支援センター
所 在 地	〒853-0018 長崎県五島市池田町1-2（五島市中央公民館内）
連 絡 先	TEL：0959-72-2515 FAX：0959-72-2515

地域の現況・特色

活動対象地域の人口 五島市 44,975人

本市は、九州の最西端に位置し、長崎港の西方海上約100Kmの五島列島の南西部、福江島、奈留島、久賀島、椀島、黄島、赤島、蕨小島、黒島、島山島、嵯峨島及び前島の11の有人島と52の無人島により構成されている。

五島市の総面積は、420.77平方キロメートルになり、地質は、大部分が古代三紀の砂岩、礫岩、頁岩及び珪岩よりなっており、地形は極めて複雑で火山群をともなう沈降性地累島群で、多くの溺れ谷をもち、その海岸線は屈曲に富んでいる。

福江島の西側の海岸には、東シナ海の荒波を受けて、みごとな海蝕崖がつらなり、特に大瀬崎の断崖、嵯峨島の火山海蝕崖は有名である。また、福江島、嵯峨島には、小型のホマーテ（臼状火山）及びアスピーテ（楯状火山）の火山群があり、その特異な火山形は我が国でも珍しい存在となっている。このため、景観は非常に美しく、その大部分が西海国立公園に指定されている。



コーディネートした事例の名称、概要、特色

1 コーディネートした事例

(1) 名称 「五島市小学生交流宿泊体験学習」

(2) 概要

- ① 五島市の小学6年生を対象に、集団宿泊研修を通して仲間づくり、忍耐力や積極性を養う場とするとともに、互いの交流や親睦を図る。
- ② 郷土のひと・もの・ことに触れることにより、ふるさとを再発見し愛着を持つ機会とする。

(3) 活動目的・内容

- ① 自然との出会いを通して、触れ合い、喜び、畏敬の念を涵養する。
- ② 共同生活をしながら、仲間との円滑な人間関係、協力する心、果たさなければならぬ自己の役割と責任について学ぶ。
- ③ 参加した友だちとの交流や、共に活動したりして、友情を育む。
- ④ 何事も進んで取り組めるような課題を設定し、自主的な態度や能力を伸ばす。
- ⑤ 自分でやってみたいと思うことに挑戦させ、体験を通して、いろいろな生活力を身に付ける。
- ⑥ 楽しくて、愉快的な、様々な冒険的な体験活動にチャレンジさせ、充実感、達成感を味あわせる。(ペーロン※等)
- ⑦ 郷土料理づくりを通して、地域の人々との交流を深めるとともに、郷土を知る、郷土に貢献する行動を促す機会にする。

※ペーロン…九州南西部で行われる、中国伝来の舟漕ぎ競争。極端に細長い和船に2、30人が乗り、櫂を漕ぎ、銅鑼・太鼓ではやしながらか競争するものをいう。

コーディネートの実際

「五島市小学生交流宿泊体験学習」は、五島市青少年健全育成連絡協議会の事業として行われた。「五島市体験活動ボランティア活動支援センター」(以下、「支援センター」という。)は、五島市青少年健全育成連絡協議会から事業の相談及び協力依頼があり、コーディネートを行った。

(1) 支援センターのコーディネート機能

- ① 支援センターは、五島市の青少年の「奉仕活動・体験活動の推進」を図るため、地域に対する啓発活動や青少年指導者、団体、行政等の各機関等のネットワークづくり等の活動を行い、推進拠点としての役割を果たすようにしている。
- ② 支援センターは、青少年に対して様々な体験やボランティアなどの活動機会を提供することによって、他人を思いやる心や倫理観等を育み、青少年の健全育成及び地域に貢献する青少年活動を奨励している。

- ③ 支援センターは、地域で人間性豊かな青少年を育成するために、20歳未満の青少年の体験活動ボランティア活動を推進し、活動する場所として、地域、事業所、学校、団体、勤務場所等に協力を要請し、活動機会の充実に努めている。
- ④ 支援センターは、青少年の奉仕活動・体験活動を、学校や地域等で総合的に推進し、地域教育力の再構築、活性化を図るために機能している。

(2) コーディネート活動の経過

- ・ 地域で子どもを育てる環境整備の充実や、様々な体験活動を通じた人間性豊かな青少年の育成を図る。
- ・ 地域の教育力を結集し、小・中・高校の段階にある青少年の学校内外を通じた奉仕活動・体験活動を充実するための総合的な推進体制整備を図る。併せて、地域教育力の再構築・活性化をねらいとする。

4月 1日：市広報誌で体験活動ボランティア活動登録者を募集

4月11日：市内各小・中・高校へ登録申込書、チラシを配布
登録申込後、保険加入

4月28日：体験活動ボランティア活動登録者へ希望する団体・事業所等のアンケート調査

6月：五島市青少年健全育成連絡協議会と連携を図り、小学生の班付き指導者の補助として、募集を行った。五島市小学生交流宿泊体験学習宿泊参加希望者へ参加申込書（保護者の承諾書）と日常健康調査書を配布

連絡・調整（集合時間・場所、携行品などの確認のために、学生ボランティアへ電話で連絡した。）

7月：五島市役所で事前学習とキャンプ運営の打ち合わせを行った。

7月19日：五島市小学生交流宿泊体験学習しおりを学生ボランティアへ配布し、最終打ち合わせ（再度、出欠確認、集合時間・場所などの確認を電話で連絡した。）。一人一人に電話での連絡は、部活動や塾、習い事などで生徒は忙しく、なかなか、連絡が取りづらく苦労した。

7月26～28日：五島市小学生交流宿泊体験学習開催

それぞれの班（男子6班、女子5班）に分かれ、活動した。係分担を決め、朝食・昼食・夕食・片付けなどをした。キャンプファイヤーの出し物の練習をした。一日を振り返り、班長会議をした。小学生交流宿泊体験学習に参加しての感想文を書いてもらった。

(3) 参加者数

小学生83人、学生ボランティア中学生10人、指導者・スタッフ（小学校教諭、五島市青少年健全育成連絡協議会委員、五島市教育委員会職員）20人

(4) 活動メニュー

郷土料理作り、海水浴、ペーロン体験、野外炊飯、キャンプファイヤーなど（郷土

料理作りは、地元漁業婦人部による指導のもと、アジのフライ、すり身、刺身、つみれ汁を作り堪能した。)

(5) 成果・課題

- ① 五島市奈留町宮の森総合公園キャンプ場に宿泊し、学生ボランティアスタッフが班付き指導者の補助等を通して、自分自身の体験活動を充実させるとともに互いの交流を深めた。
- ② 学生ボランティアとして参加した中学生は、「小学生と仲良くできるか、うまく指導できるか不安だった。」「貴重な体験ができ、またこういう機会があれば参加したい。」などの感想があった。小学生への指導や接し方の難しさを感じながらも、仲間とのコミュニケーション、助け合いや自然の大切さについてこのキャンプで学ぶことができた。
- ③ 学校の諸活動や地域でのイベントなどの合間を見て、調整することが大変難しく、今後の課題である。
- ④ 子どもたちが休日等どのように過ごしたいのかを理解し、活動内容を見直す必要がある。また、中学生・高校生がボランティアとして事業に参加してもらうには、学校の理解や協力が不可欠である。
- ⑤ 今後、より多くの児童・生徒がボランティア活動へ自主的に参加してもらうため、事業の受け入れ内容の拡充や魅力ある活動内容の充実、また、広報・啓発が大切であると考える。



ペーロン体験



郷土料理づくり (あじのすり身作り)



火おこし



キャンプファイヤー

平成17年度 五島市小学生交流宿泊体験学習 日程表

	7月26日(火)	7月27日(水)	7月28日(木)
6:00		起床・身支度 ラジオ体操	起床・身支度 ラジオ体操
7:00		朝食準備・朝食・片付け	朝食準備・朝食・片付け
8:00		・清掃・荷物まとめ	・清掃・荷物まとめ
9:00		体験活動 (ペーロン、海水浴)	宮の森公園発 徒歩移動
10:00	9:30 大波止集合 乗船 10:00発 海上タクシー		
11:00	10:30 奈留港 徒歩移動		奈留港着 解団式 奈留港発 海上タクシー 福江港着 解散
12:00	宮の森公園着 昼食・休憩 (奈留参加者は13時までに集合)	昼食・自由時間	
13:00			
14:00	結団式 オリエンテーション・自由時間など		
15:00		体験活動(郷土料理づくり)	
16:00			
17:00	夕食準備・夕食・片付け	夕食・片付け	
18:00			
19:00		キャンプファイヤー	
20:00	交替で入浴 今日の振り返り		
21:00	明日の準備 (キャンプファイヤー出し物練習など)	交替で入浴 今日の振り返り 明日の準備(荷物のまとめなど)	
22:00	消灯・就寝	消灯・就寝	
23:00			

執筆者職・氏名：五島市教育委員会 生涯学習課

五島市中央公民館主事

今村 洋子